



5月幼稚園だより

令和6年5月1日
千代田区立番町幼稚園
園長 中村 千絵

探究の芽生え

園長 中村 千絵



(番町幼稚園HP)

遊びの中での小さな探究 -気付く-

3歳児もも組は、入園後2週間が経ち、幼稚園にも慣れ、遊びを楽しめるようになってきました。ある日、ブロックで電車を作った子どもたち。たまたま近くにいたことで、一緒に電車を走らせ始めます。トンネルをくぐったり、並んで走らせたりしているうちに、一人が、友達のものに「形が違う」ことに気付いたのです。そして、友達と同じ物にしたいと思ったようで、何度もブロックを外しては、他のものをはめ、外し、作ってみては友達のものとは比べ、20分かけて同じ形の電車を作り上げ、大満足の様子でした。



3歳児の遊びの中での小さな目的ではありますが、目的に向かって、自分の知識と技術を総動員して試し、試しの途中で、友達の電車と比較し、再調整をしていく。保育の後、教員の中で、「探究の芽生えだね」という話になりました。

幼稚園では、自分で何を遊ぶかを決め、自分であるいは友達と遊びを創り出していきます。それは、生涯に渡る学習活動の基礎でもあり、「人生をよりよく生きよう」とする意欲の土台にもなっていく経験です。

清水谷公園遠足の中で -心が動く-



4月25日、5歳児うめ組の清水谷公園への徒歩遠足でした。大妻女子大学 石井雅幸教授と一緒に子どもたちが自然探しの探検をしました。

清水谷公園に一步入ったところから、落ち葉を踏みしめながら、「クワガタの匂いだ!」「葉っぱの下には、ダンゴムシがいるはず!」と大興奮の子どもたち。今までの自分たちの自然探検があったり、幼稚園の前庭で落ち葉の下でダンゴムシを見つけた経験があったりするから、心が動きます。

自分で見付けたからもっと知りたい -関心をもつ-

子どもたちは、虫や不思議だと思ったものを見付け、石井先生のところにもっていきます。「これはクロオオアリだね」「ああ、よく見付けたね。ダンゴムシの抜け殻だよ」と、石井先生が教えてくださったことで、「このアリはオスなのかなあ。メスなのかなあ?」「葉っぱにのっているのは、これがエサだから?」と知りたい気持ちがでてきます。木の間まで入り込み、落ち葉をひっくり返して見付けたワラジムシだから気持ちもひとしお。大切に手のひらに乗せ、友達が持っているダンゴムシと見比べ、「え?ワラジムシって、ダンゴムシとすごく似てる?ええ?不思議」と驚くことができます。知識から入ったのではなく、実際に自分で体験し、心を動かしたから、関心もより高まっています。



石井先生と一緒に

遠足で持ち帰った虫たち、保育室で飼育をする中で、虫メガネやマイクロスコープなどで観察し、図鑑で調べ、分かると、また、次の知りたいことが出てくる。これも探究の芽生えの姿です。

5月は、園庭にダンゴムシがたくさん出てきたり、花や野菜の苗を植えたり、武蔵野公園で川遊びをしたり、自然との触れ合いが豊かにあります。子どもたちが自然の不思議さや偉大さを感じ、探究する気持ちを育てるよう、保育を充実させてまいります。

5歳児うめ組が、グループの友達と相談して、色を決め、絞り染めて作ったこいのぼりです。ゴールデンウィーク明けまで、校庭で元気に泳いでいますので、どうぞご覧ください。

